

インターネット・パフォーマンスモニタ、
インターネット用トラフィック情報収集システム

インターネットによる通信サービスを行うには、実際にどのようなトラフィックが流れているかのモニタリングが重要な課題となる。特に近年のインターネットでは、そのバックボーンに高速回線が使用されているため、高速回線上のインターネットトラフィックをどのようにモニタするかが技術的な課題となる。KDD はこれに対し二つのアプローチで研究を進めた。一つが、1998 年（平成 10）に開発した「インターネット・パフォーマンスモニタ」である。本システムは、回線をモニタしながら、オンラインで、全体のパケット数/バイト数、通信するアドレスの組ごとの、パケット数/バイト数、TCP レベルでの再送数やスループット、コネクション持続時間などの詳細情報を解析・保存する。これにより高速インターネットを流れるトラフィックの情報をオンラインで入手できる。もう一つが、99 年に開発された「インターネット用トラフィック情報収集システム」であり、本システムはインターネットを流れるトラフィックの制御情報やユーザー情報を、長時間にわたりそのまま蓄積することを目的としている。このため、大容量のディスク装置を用いて、連続的にデータ監視を行い、必要に応じてテープ装置への保存をオンラインで行うことを特徴としている。

出典：KDD 社史